

2021年2月24日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
修士論文

女性の関節リウマチ患者の  
家族計画の意思決定のニーズ調査及び  
試作版意思決定ガイドの開発

Assessment of Motherhood Decisional Needs  
and Development of a Motherhood Choices  
Decision Aid Prototype for Rheumatic Women

19MN007

大歳里沙

## 論文要旨

### 【目的】

1. 関節リウマチ：Rheumatoid Arthritis と診断された女性（以下、RA の女性と略す）の家族計画の意思決定のニーズを抽出し、RA の女性に向けた家族計画の意思決定支援における課題と支援策を明らかにする。
2. 明らかにされた RA の女性の家族計画の意思決定のニーズを反映し、RA の女性に向けた家族計画の意思決定ガイドの試作版（以下、試作版ガイドと略す）を作成する。

【方法】 試作版ガイドは、オーストラリアで開発された RA の女性に向けた家族計画の意思決定ガイドを参考とし (Meade et al., 2015)、ガイド開発のための構造化されたプロセスに則って作成した (Coulter et al., 2013)。妊娠を検討した経験のある RA の女性 12 名への半構造化インタビュー（デザイン 1）と、RA の女性の診療・ケアに携わる看護師 3 名・助産師 1 名への半構造化インタビュー（デザイン 2）を行った。逐語録を作成後、本研究の概念枠組みである Ottawa Decision Support Framework の Decisional Needs の 8 領域を枠組みとした内容分析を行い、家族計画の意思決定のニーズを抽出した。国内の RA の治療指針やガイドラインなどのエビデンス情報（デザイン 4）と、デザイン 1・2 で示された意思決定のニーズを反映させ、試作版ガイドを作成した。ガイドの提供方法の決定（デザイン 3）については、今後 web 版 PDF 形式での提供を検討予定である。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査会の承認（20-A025）を得て実施した。

### 【結果】

1. RA の女性は、自身の病状の悪化への不安、薬剤と妊娠に関する知識不足など、8 領域 31 個の家族計画の多様なニーズを抱えていた。自身の病状の悪化を心配する価値観と、早期妊娠を望む価値観の葛藤など、感情的に左右されやすい状況下で家族計画の意思決定を先延ばしにしており、意思決定の支援のニーズが高いと示唆された。家族計画の意思決定支援における課題として、医療者も RA と妊娠に関する知識を十分に持ち合わせていないこと、RA の女性が家族計画の意思決定に主体的に参加するための支援が不十分であることが示された。支援策の一つとして、試作版ガイド開発の意義が示唆された。
2. RA の女性と医療者から語られたニーズを反映し、試作版ガイド（A4 版、全 35 ページ）を開発した。本研究で明らかにされた国内の RA の女性のニーズを踏まえ、試作版ガイドでは、①今のところ（さらに）子どもは望まない、②なるべく早く妊娠を望む、③リウマチ治療に専念してから妊娠を望む、の三つを家族計画の選択肢として示した。

【結論】 RA の女性は家族計画の意思決定の多様なニーズを抱えているが、意思決定の支援を十分に得られていない。RA の女性が検討しうる家族計画の選択肢は、RA の発症時期・症状の程度・妊娠を検討する年齢によって多様であり、今後対象者の状況に合わせた家族計画の選択肢を含む、複数のガイドのバリエーションを検討する必要がある。試作版ガイドは、質の評価や内容適切性評価を行い、改訂・改良を重ねる必要がある。